



第65号

発行日
令和7年3月31日
発行
栃農高同窓会事務局

栃木県立栃木農業高等学校
同窓会

ご挨拶



同窓会会長
横尾 武男

同窓会機関誌「土」の発刊にあたり一言ご挨拶申し上げます。同窓生の皆様には日頃から同窓会活動にご理解とご協力を頂いておりますことを深く感謝しております。今後とも栃農高同窓会へのご支援を心よりお願い申し上げます。

この一年を振り返ってみますと、政治に大きな変化があった年であったと思います。九月の自民党総裁選挙では過去最多の九名が立候補し、SNSや動画を使った選挙戦を繰り広げた結果、石破茂新総裁が誕生しました。十月には衆議院選挙が行われ、自民党は二〇〇九年以来の単独過半数割れとなり、野党が躍進をしました。また、東京都知事選挙や兵庫県知事選挙も関心を集めたのではないでしょう。

経済に目を向けて見ますと、七月には、二万円札は渋沢栄一、五千円札は津田梅子、千円札は北里柴三郎になり、偽札対策の最新技術にも注目が集まりました。さらには、この夏「米がどこにもない」という声が相次ぎ、

もともと在庫の少ないところに、地震や台風に備えた買いだめの動きが拍車をかけた可能性があるとわれ、新米も値上がりするなど大きな影響が出ていました。

スポーツ界においては、今年度も大谷選手の活躍が光る一年でした。ドジャースへの移籍、結婚発表、ホームランと盗塁の「五〇―五〇」達成など常に世界の注目となりました。また、夏のパリオリンピックでは、日本は、金メダル二十個、銀と銅を合わせたメダル数は四十五個と過去最多となりました。特に柔道の混合団体は、決勝で代表戦までもつれる熱戦となり、惜しくも敗戦してしまいました。時間が忘れてしまふほど釘付けになってしまいました。感動して目頭熱くなっていたのを見えています。

さて、今年度の同窓生の活躍に目を向けて見ますと、春の叙勲において青木民夫様、渡辺政一様二名が褒章を受章され、秋の叙勲では永田武志様、飯村一郎様、寺内貢様三名が褒章を受章されました。同窓生が多方面で活躍している姿が伺うことができ大変嬉しく感じております。また、母校の教育活動においても数々の活躍を聞いております。農業クラブ活動では、プロジェクト発表二部門で関東大会に、平板測量競技会では全国大会へ出場して優秀賞を獲得、鑑定競技会でも二分野で優秀賞を獲得する躍進をさらには、部活動では、手打ちそば部や農業環境部などの文化部では数々の賞を受賞したり、運動部では柔道部では二年連続関東大会に出場などの活躍も新聞等で拝見させていただいております。

一方で、一昨年の七月に県教育委員会から第三期の高校再編計画（案）が出され、栃木農業高校・栃木工業高校・栃木商業高校の三校での協議が進められている所と聞いており、同窓会としても「栃農」の名は無くなってもこれまで一二〇年近く、脈々

と続いてきた農学校・農業高校・栃農の歴史や伝統を何らかの形で残せるよう働きかけていく所存でございます。

令和八年には、創立一二〇周年を迎えますが、本年度は十月と三月に創立一二〇周年記念事業準備委員会を開催しました。スケジュールや予算、記念事業について、協議を行いました。次年度も総会などで多くの諸先輩・同窓生より御意見などをいただき、伝統継承・栃農ブランドの確立をしていければと考えておりますので、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

終わりに、母校の益々の発展と会員の皆様のご健勝・ご多幸をご祈念申し上げます。発刊の挨拶といたします。



ご挨拶



校長
小林 政至

栃農食品化学科の思い出
～レオン自動機と栃農大福～

日頃より、同窓会の皆様方には、本校教育にご理解ご協力を賜り感謝申し上げます。インターンシップなどにおいても、本校生が諸先輩の農場や職場に大変お世話になっておりますこと、この場をお借りしまして重ねて御礼申し上げます。昨年は、本校を含め商業、工業高校との三校統合の件で、皆様方にはご心配や本校がなくなると言う寂しい思いをさせてしまいました。再編につきましては、具体的に大きく動くのは平成七年度からと言うことになりましたので、また動きが出てきましたらホームページ等で情報発信をさせていただきますと存じます。

さて、私事ではございますが、本校で昭和六十二年から二十一年間、そして令和四年から三年間の都合二十四年、栃農高に勤務し、育てていただいたのですが、今年度をもって退職という運びになりました。今回は食品化学科の思い出、特に毎年好評をいただいていた栃農大福にまつわる話を少し述べさせていただきますと思います。私が本校にはじめて赴任したのは今から三十八年前、まだ昭和の時代でした。食品化学科に配属され、当時は食品化学という、化学的視点で食品を学ぶ授業などを中心に教えていました。まず、本校に来て驚いたのは、レオン自動機の包餡機があつて、それを使って実習できることでした。大学の先生が、私が高校教員になれなければ、レオン自動機が良いのではと勧められていたほどの大手食品機械のメーカーでしたので、その包餡機が高校にあるなんて夢にも思っておりませんでした。

大まかな構造は知っていたものの、実際には使ったこともなく、高校生がこんな高価な機械を使つて実習ができるとは思ひもよらないことでした。そこで、この包餡機の誕生秘話をご紹介します。

包餡機を造つたのは、その世界（食品工業界）では知らない人はいない、林虎彦（故人）。元々は菓子職人であつた。台湾で生まれた虎彦は、優秀で手先が器用な子供だつた。終戦を台湾で迎え、九州にたどり着き、配給品の横流しを行い、一財産を築く。その後、たどり着いたのが金沢の菓子職人の親類宅。そこで菓子職人として、めきめきと腕を上げ結婚、新しい菓子を創造するような菓子職人になった。毎日同じ作業に明け暮れ、そこで虎彦は、「単純な作業は機械に任せて、人間はもっと頭脳を使う創造的な仕事を行うべきだ」と言う信念を持つ。そして包餡機の開発に挑むことを決意した。私財を投入し、仕事もそっちのけで研究に没頭、中学しか出ていない彼が、大学の物理学科で学ぶような流体力学を独学でマスターしながらの開発であつた。しかし、うまくいかず、資金も底をついた。金沢に居られなくなり、逃げようにその地を離れた。そしてたどり着いたのが、取引のあつた栃木県の鬼怒川温泉であつた。そこではまず、資金作りに専念した。すぐに、菓子職人の腕を利かせてあの有名な銘菓を造る。

「鬼怒の清流」である。それが順調に売れると、虎彦はまた、包餡機を造ると言う信念で研究に没頭。「鬼怒の清流」のレシピなどは同業者に売却した。現在、虎彦製菓という会社名にその名残がある。そして「鬼怒の清流」で得た財産で包餡機の開発に再びチャレンジし、ようやく試作機が完成したのは昭和三十六年。そして、支援企業を募り、立ち上げたのがレオン自動機（株）で昭和三十八年である。昭和三十年代後半の日本は高度成長真っ盛り、昭和三十九年には東京オリンピックが開催、新幹線開通と近代化の波が押し寄せ、ものを造れば売れる時代であつた。まさにレオン自動機（株）はその波に乗り、菓子や製パン業への機械開発を行い、クロワッサンなど職人でも難しい工程を機械で作れるようにして、フランスのパン

をアメリカで大流行させた。海外にも積極的に繰り出し、菓子業界の機械では世界的な企業となつた。

このように、歴史的な夢の機械と称されるレオン自動機の包餡機が、本校にあり、現在三代目となつています。たまたま、栃木県で林虎彦氏が起業して商品化したものが、本校の食品化学科の誕生に重なつて本校に導入されたのですが、当時としてはかなり高価で、貴重なものだったのでないかと思ひます。それが導入されたことだけでもすごいことです。それが以来六十年以上の長い間、栃農大福として、本校の伝統として息づいているのは、素晴らしいことだと思ひます。本校には、それ以外にも伝統的に栽培しているものなどいろいろあります。数年後校名としての栃農高はなくなつてしまひますが、これまでの歴史を重ねてきた栃農生がつくる大福などが、栃農ブランドとして永遠に続くことを願つてやみません。ますます、栃農ブランドが輝く日を夢見て、これからは、栃農生を皆様と一緒に陰ながら応援していきたいと思ひます。これまでの長い間大変お世話になりました。



質実剛健 進取自活

栃農ブランドの確立そして継承
120年の伝統を生かしつつ未来へ

栃農高同窓会総会報告

令和四年度栃農高同窓会が令和六年七月二〇日（土）にホテルサンルート栃木において行われました。役員、各支部長、評議員（各卒業代表者）にて実施となりました。

横尾武男会長（昭和四五年農卒）からは、「母校の活躍が様々なメディアに取り上げられ、四学科がそれぞれの特色を持って活躍している姿を見て嬉しいとの発言がある一方で、県教育委員会から第三期の高校再編計画（案）が出され、栃木農業高校・栃木工業高校・栃木商業高校の三校が統合することになり、これまで一二〇年近く、脈々と続いてきた農学校・農業高校・栃農の名称が、なくなることの寂しさがあるが、これからも、我々同窓会一丸となって学校を応援していきたい」と心強いお言葉をいただきました。

総会の議事では、役員改選、令和五年度事業報告、決算報告（監査報告）、令和六年度事業計画案、予算案について審議していただきました。また、創立一二〇周年記念行事事業についてや三校統合については、参加者から多くの惜しむ声を沢山頂戴しました。総会終了後には、「自然環境と共生を未来へ」思索の森で紡ぐ里山再生のテーマのもと農業環境部（環境デザイン）の生徒による生徒活動発表が行われました。また、会長より農業クラブ関東大会出場の激励金の贈呈がありました。

～総会次第～

- 1 開会のことば
- 2 会長挨拶
- 3 学校長挨拶
- 4 議題
 - (1)役員改選について
 - (2)令和5年度事業報告
 - (3)令和5年度決算報告(監査報告)
 - (4)令和6年度事業計画案
 - (5)令和6年度予算案
 - その他 祝賀会について
- 創立120周年記念行事事業について
- 5 閉会のことば

新同窓会役員一覧

会長	横尾 武男	(再任)
副会長	清水 武治	(再任)
副会長	関口 孫一郎	(再任)
副会長	福田 栄作	(再任)
副会長	後藤 至人	(教頭)
監事	田中 正造	(再任)
監事	日向 野哲夫	(再任)
監事	小林 真理子	(再任)

令和6年度 同窓会入会式 新入会員 142名！！



令和六年度 新入会員代表
小川 真央

同窓会入会にあたり新入会員を代表いたしまして一言ご挨拶申し上げます。同窓会入会式にて、私たち一四二名の入会を認めていただきありがとうございます。同窓生の一員になれたこと、とても嬉しく思います。

今までの高校生活を振り返っていくと、様々な思い出がよみがえると同時にたくさんの方々に助けられ、支えられていたことが思ひ出されます。特に栃農祭では、今年は、農産物即売会と文化祭を別の時間帯に分けて実施されました。各クラスで模擬店やレクリエーションなどの出し物をし、どのクラスも絶え間なくお客さんが来ていたことだと思えます。自分たちで意見を出し合い、例年通りではない栃農祭にできたと感じます。また、行事だけでなく、部活動や農業クラブの活動でも上位の大会に進む際に同窓生からの応援や激励金をいただきとても感謝しています。このような活動にご尽力くださった先生方や同窓生の皆様に心からお礼申し上げます。

これからの私たちはそれぞれの道を歩み、目標にむかって努力していきます。新しい環境や出会いに不安に思うこともあるでしょう。しかし、ご活躍されている先輩方を目標に少しずつでも成長していこうと考えています。また、栃木農業高校の同窓生として恥じないよう今まで勉強してきたことを社会に発揮できるように頑張っていきたいと思います。温かく見守ってもらえると幸いです。

最後に栃木農業高校ならびに同窓会の益々のご発展を祈念し、挨拶いたします。

栄光の先輩方

春の叙勲

青木 民夫 様 (昭五十六年農業科卒)

瑞宝双光章 (防衛功労) 受章

渡辺 政一 様 (昭四十七年農業科卒)

瑞宝双光章 (消防功労) 受章

秋の叙勲

永田 武志 様 (昭四十二年園芸科卒)

旭日双光章 (地方自治功労) 受章

飯村 一郎 様 (昭四十三年農業科卒)

瑞宝単光章 (消防功労) 受章

寺内 貢 様 (昭四十六年農業科卒)

瑞宝単光章 (消防功労) 受章

本校生徒の活躍

飲むソース「栃濃ブラック」完成

食品科学科生徒有志二十名と栃木市商工会議所青年経営者会(栃木YEG)の方々とんかつソースをベースにした飲み物の開発(イチゴやユズなどを加えた新しい味の探求)を行いました。その名も「栃濃ブラック」。開発にあたって、ソースやイチゴジュース、ユズマーマレードの割合を変えて試飲会を実施して味を決定しました。味は、ソースの中にイチゴがほのかに香り、そのままだでも、炭酸、カルピスなどで割っても美味しいものができました。西方おとめ会の皆様の協力のもと製造することができました。

また、ラベルは栃木商業高校が担当し、付属のコースターについては栃木工業高校が担当して栃木市の特産品として販売していき、地域活性化につなげていく所存です。

試飲会での様子



完成！！「栃濃ブラック」

令和六年度栃木県内高等学校「NasUSHIobaraCookinnngContest」優良賞受賞

肉巻き弁当野菜たちのお洋服！
～和牛とゆずに包まれて～



令和六年十一月三〇(土)に開催されました。農業環境部食品科学班三名が一チームとなり参加しました。テーマは「和牛肉を使った弁当」ということで、野菜を牛肉で巻きユズマーマレードで煮込む工夫をしました。審査員の方からは、「野菜嫌いな人も、お肉に巻かれているので食べちゃうんじゃないか」と講評をいただきました。後日、主催者から参加校全ての商品化が提案され、高校生アイディアと情熱をそすいの郷直売センターおふくろ亭のペテラン調理人が再現し店頭にて販売されました。